

## 経済情勢 (12月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに景気は概ね横ばいとなっているが、海外経済の減速や原油安を背景とした金融市場の混乱を受けて、先行きは不透明感が高まっている。

### (全国)

個人消費	一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している
住宅投資	新設住宅着工戸数は前年を下回った
設備投資	機械受注は非製造業が増加したものの、製造業が減少したことから前年を下回った
公共投資	前年を下回った
輸出	輸出金額は前年を下回った
生産動向	一進一退となっている
雇用情勢	求人倍率が高水準で推移するなど、着実な改善を続けている
エネルギー	電力需要、ガス販売量ともに前年を下回った

### (中国)

個人消費	一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している
住宅投資	新設住宅着工戸数は前年を上回った
公共投資	前年を上回った
輸出	輸出金額は前年を下回った
生産動向	一進一退となっている
雇用情勢	求人倍率が高水準で推移するなど、着実な改善を続けている
エネルギー	電力需要、ガス販売量ともに前年を下回った

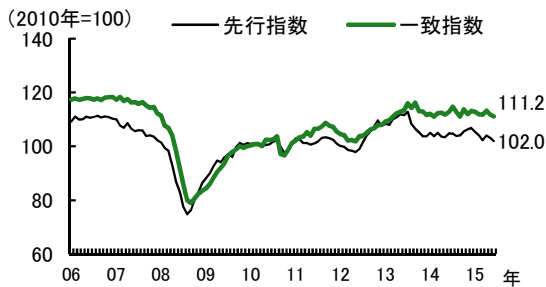
## 1. 景気動向指数(12月)

(全国) CI一致指数は2カ月連続で下降している。

(中国) CI一致指数は2カ月連続で上昇している。

(全国)

- ・CI一致指数は111.2(前月差▲0.7ポイント)。2カ月連続で下降。
- ・CI先行指数は102.0(同▲1.2ポイント)。2カ月連続で下降。

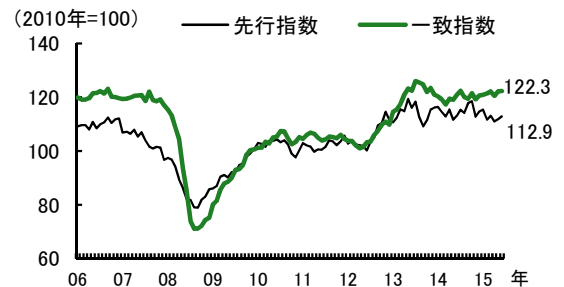


指標名	寄与度
CI一致指数(前月差)	▲ 0.7
投資財出荷指数(除輸送機械)	▲ 0.36
鉱工業生産財出荷指数	▲ 0.27
鉱工業生産指数	▲ 0.24
商業販売額(卸売業)	▲ 0.13
商業販売額(小売業)	▲ 0.00
所定外労働時間指数(調査産業計)	0.01
耐久消費財出荷指数	0.04
営業利益(全産業)	0.05
中小企業出荷指数(製造業)	0.12
有効求人倍率(除学卒)	0.14

指標名	寄与度
CI先行指数(前月差)	▲ 1.2
日経商品指数(42種総合)	▲ 0.35
鉱工業生産財在庫率指数(逆)	▲ 0.33
マネーストック(M2)	▲ 0.31
新設住宅着工床面積	▲ 0.29
東証株価指数	▲ 0.20
消費者態度指数	▲ 0.09
中小企業売上げ見通しDI	0.08
新規求人数(除学卒)	0.11
最終需要財在庫率指数(逆)	0.16
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

(中国)

- ・CI一致指数は122.3(前月差+0.1ポイント)。2カ月連続で上昇。
- ・CI先行指数は112.9(同+1.1ポイント)。2カ月連続で上昇。



指標名	寄与度
CI一致指数(前月差)	0.1
最終需要財出荷指数	0.34
全産業業況判断DI	0.25
有効求人倍率	0.25
生産財出荷指数	0.22
所定外労働時間(製造業)	0.04
電力利用率	▲ 0.02
鉱工業生産指数	▲ 0.25
通関輸入額	▲ 0.31
電力需要量	▲ 0.35

指標名	寄与度
CI先行指数(前月差)	1.1
新規求人倍率	0.65
鉱工業製品在庫率指数(逆)	0.62
実質百貨店販売額(前年比)	0.53
銀行貸出残高(前年比)	0.17
中小企業業況判断DI次期見通し	0.14
建築物着工床面積	0.01
消費者態度指数	▲ 0.17
新設住宅着工戸数	▲ 0.25
生産財生産指数	▲ 0.68

注: 1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。  
 2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要な景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。  
 3. 全国と中国地域の景気動向指数は、採用している経済指標が異なるため、水準や前月差などを一概に比較することは適切ではない。  
 4. 中国地域の景気動向指数は、2014年1月値公表時から新景気動向指数を適用(エネルギー地域経済レポートNo.477(2014.4)の解説参照)  
 資料: 全国は内閣府「景気動向指数(速報)」, 中国は当研究所で作成

## 2. 個人消費 (12月)

個人消費は全国、中国ともに一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している。

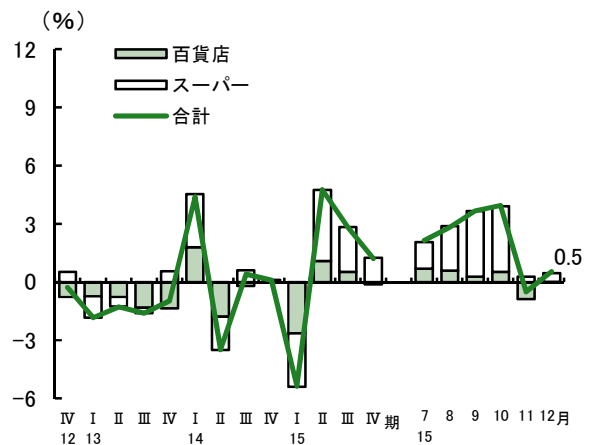
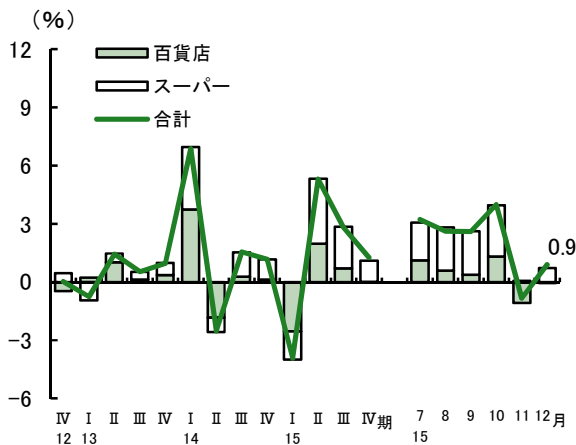
### ● 百貨店・スーパー販売額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・百貨店・スーパー販売額は2カ月ぶりに増加(前年同月比+0.9%)。
- ・スーパー(同+1.2%)は飲食料品が増加。
- ・百貨店(同▲0.1%)は気温が高かったことや天候不順の影響もあり衣料品などが減少。

(中国)

- ・百貨店・スーパー販売額は2カ月ぶりに増加(前年同月比+0.5%)。
- ・スーパー(同+0.6%)は飲食料品が増加。
- ・百貨店(同+0.1%)は衣料品が減少したものの、家庭用品や化粧品などが増加。

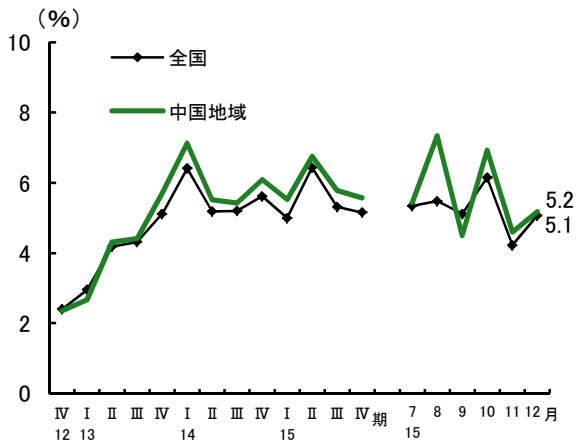


注：1. 百貨店、スーパーは、販売額の合計の対前年伸び率に対する業態別寄与度 2. 全店舗ベース 3. 最新月は速報値  
資料：経済産業省「商業動態統計月報」、中国経済産業局「中国地域百貨店・スーパー販売動向」

### ● コンビニ販売額 [対前年伸び率]

(全国) 34カ月連続で前年比プラス(前年同月比+5.1%)。

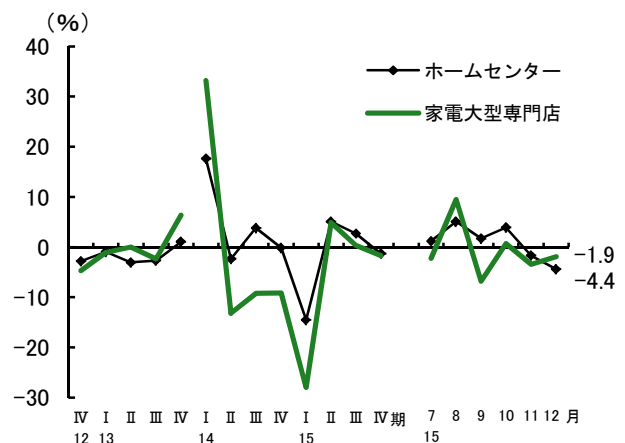
(中国) 34カ月連続で前年比プラス(同+5.2%)。



### ● ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

(中国)

- ・ホームセンター販売額は2カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲4.4%)。
- ・家電大型専門店販売額は、2カ月連続で前年比マイナス(同▲1.9%)。気温が高かったことなどから、エアコン等の暖房器具が伸び悩んだ。

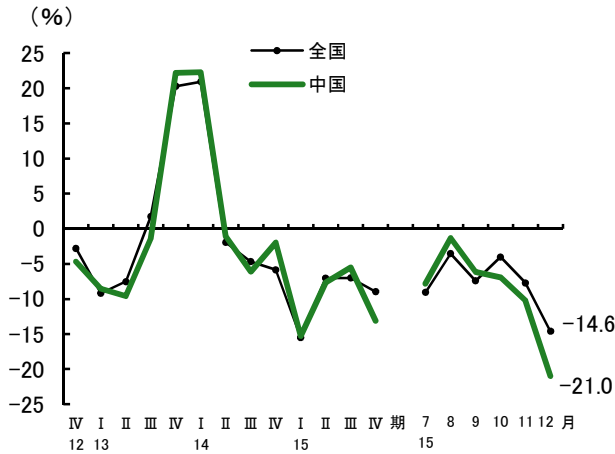


注：1. 全店舗ベース 2. 最新月は速報値 3. ホームセンター・家電大型専門店販売額は、2014年1月より調査対象等が変更されたため、それ以前の数値とは不連続が生じている。

資料：経済産業省「商業動態統計月報」、中国経済産業局「中国地域百貨店・スーパー販売動向」「中国地域専門量販店販売動向」

● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

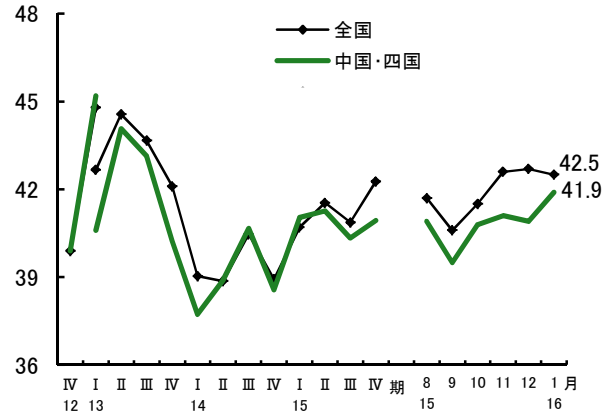
(全国) 普通乗用車は増加したものの、軽乗用車や小型乗用車が減少したことから、12カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲14.6%)。  
 (中国) 軽乗用車は前年の水準が高かった反動で、減少幅が拡大したほか、小型車も減少したことから、12カ月連続で前年比マイナス(同▲21.0%)。



資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、(一社)全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費者態度指数(1月)

(全国) 消費者態度指数は、42.5。4カ月ぶりに前月比マイナス(前月差▲0.2ポイント)。「耐久消費財の買い時判断」は上昇したものの、「暮らし向き」「収入の増え方」など3指標が下降した。  
 (中国) 消費者態度指数は41.9(同+1.0ポイント)。



注：1. 消費者態度指数は一般世帯の数値 2. 全国は季節調整値、中国・四国は原数値 3. 四半期は月次の平均値 4. 2013年4月より調査方法等が変更されたため、それ以前の数値と不連続が生じている(新調査における2013年I期は参考値)。

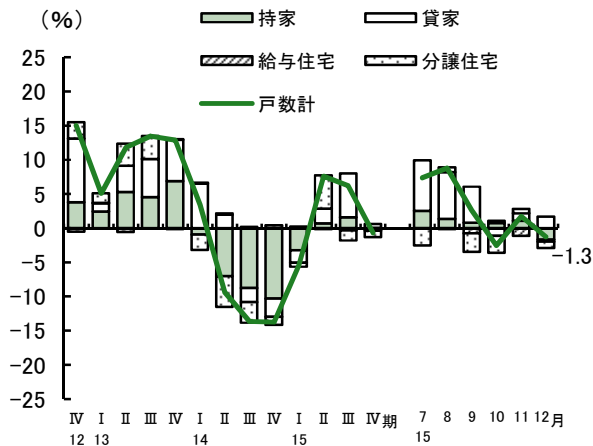
資料：内閣府「消費動向調査結果」

3. 住宅投資(12月)

(全国) 新設住宅着工戸数は前年を下回った。  
 (中国) 新設住宅着工戸数は前年を上回った。

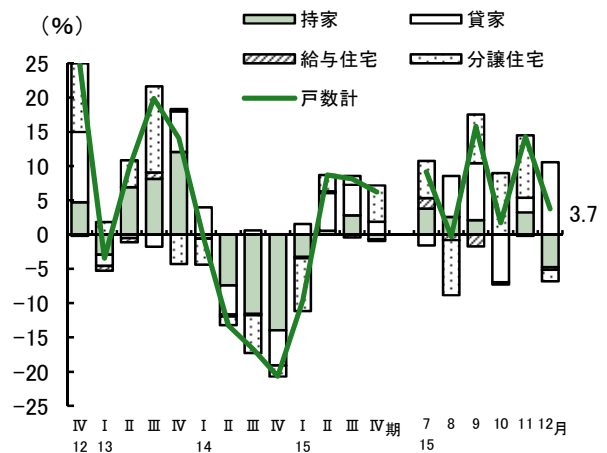
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国) 貸家は増加したものの、持家や分譲住宅が減少したことから2カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲1.3%)。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度  
 資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国) 持家、分譲住宅は減少したものの、貸家が増加したことから、4カ月連続で前年比プラス(前年同月比+3.7%)。



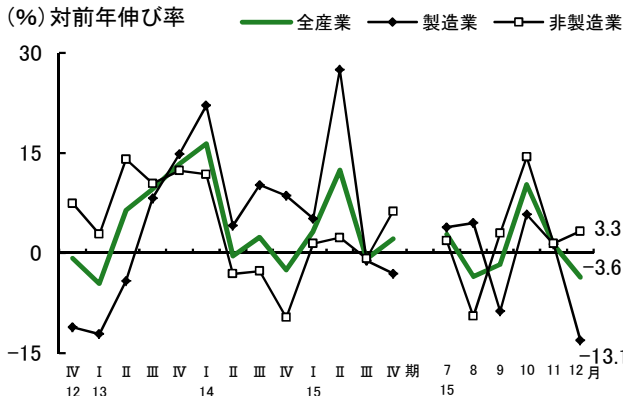
#### 4. 設備投資・公共投資（12月）

機械受注は非製造業が増加したものの、製造業が減少したことから前年を下回った。  
 公共投資は全国では前年を下回ったものの、中国では前年を上回った。

##### ● 機械受注額

(全国)

- ・ 3カ月ぶりに前年を下回った（前年同月比▲3.6%）。
- ・ 製造業（同▲13.1%）はその他製造業などが減少。
- ・ 非製造業（同+3.3%）は卸売業・小売業などが増加。



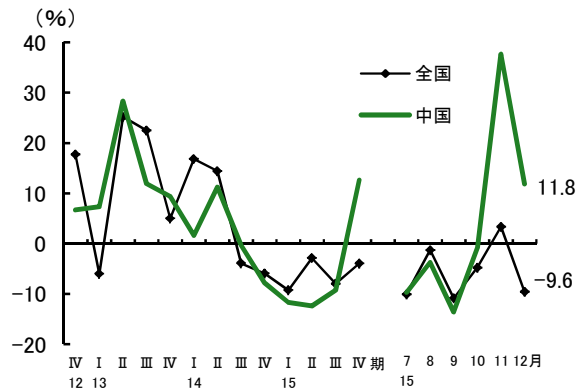
注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

##### ● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

(全国) 市区町村や国からの発注が減少したことなどから、2カ月ぶりに前年比マイナス（前年同月比▲9.6%）。

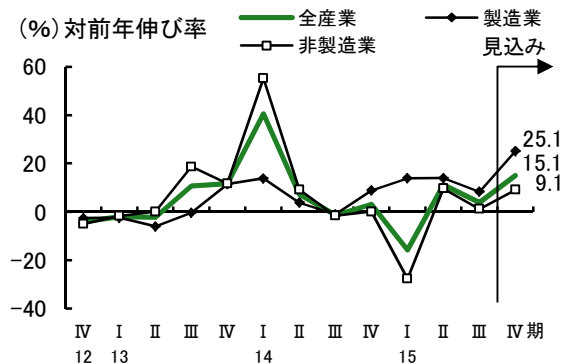
(中国) 県からの発注は減少したものの、その他公共の団体や国が増加したことなどから、2カ月連続で前年比プラス（同+11.8%）。



##### ● 法人企業景気予測調査（2015年10-12月調査）

(全国)

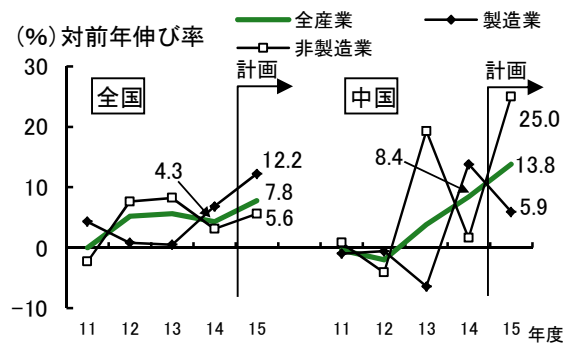
- ・ 10-12月期の設備投資額は、3四半期連続で前年比プラスとなる見込み（前年同期比+15.1%）。
- ・ 製造業（同+25.1%）、非製造業（同+9.1%）ともに前年を上回る見込み。



##### ● 企業短期経済観測調査（2015年12月調査）

(全国) 12月調査における15年度の設備投資は4年連続で前年度を上回る計画（前年度比+7.8%）。製造業、非製造業ともにプラスとなる見通し。

(中国) 12月調査における15年度の設備投資は3年連続で前年度を上回る計画（同+13.8%）。製造業、非製造業ともにプラスとなる見通し。



注：法人企業景気予測調査、企業短期経済観測調査（以下、短観）は四半期ごとに公表されている。

資料：内閣府・財務省「法人企業景気予測調査」

日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」

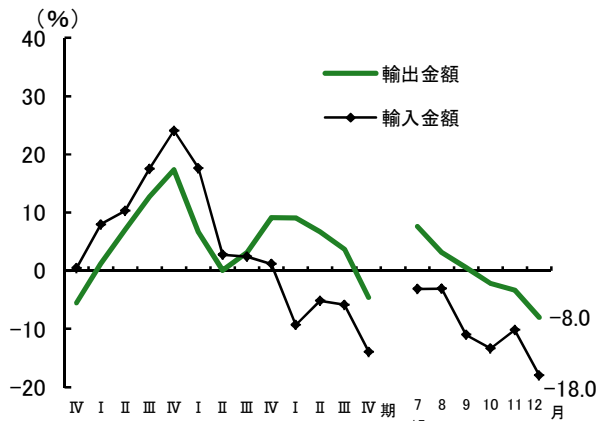
## 5. 輸出・輸入(12月)

輸出金額は全国、中国ともに自動車は増加したものの、鉄鋼などが減少したことから、前年を下回った。  
輸入金額は全国、中国ともに原油価格が下落した影響などから、前年を下回った。

### ● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

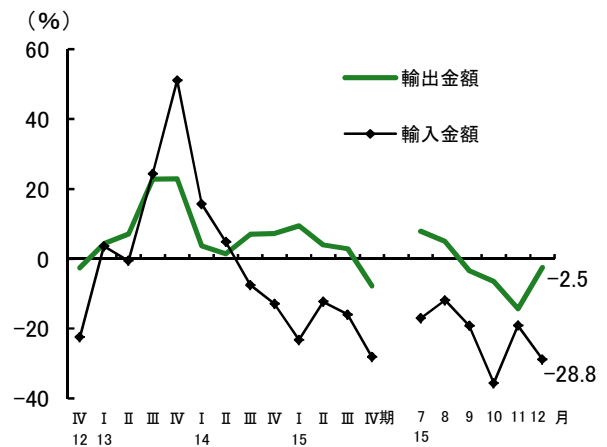
- 輸出金額は3カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲8.0%)となった。自動車が増加したものの、鉄鋼、有機化合物などが減少した。
- 輸入金額は原油や液化天然ガスなどが減少したことから、12カ月連続で前年比マイナス(同▲18.0%)。



注: 1. 輸出金額, 輸入金額は円ベース 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁)  
資料: 財務省「貿易統計」, 神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

(中国)

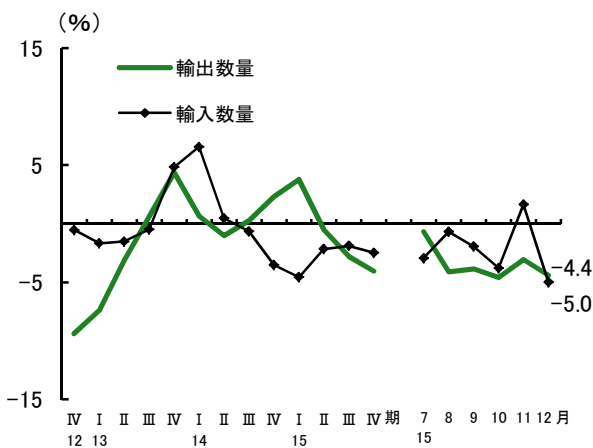
- 輸出金額は4カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲2.5%)。自動車が増加したものの、石油製品や鉄鋼などが減少した。
- 輸入金額は原油などが減少したことから、8カ月連続で前年比マイナス(同▲28.8%)。



### ● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

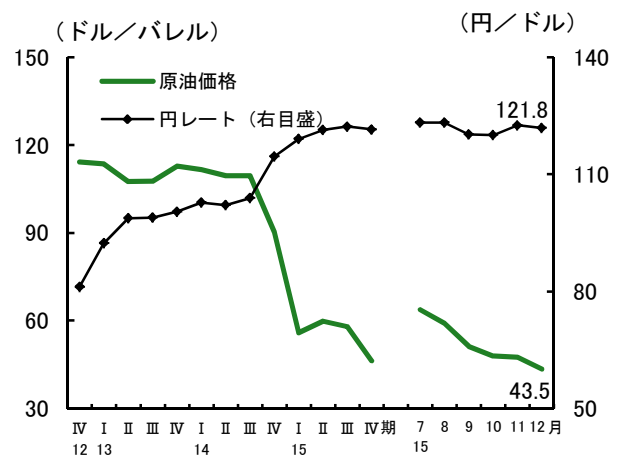
- 輸出数量は前年比マイナス(前年同月比▲4.4%)。
- 輸入数量は前年比マイナス(同▲5.0%)。



注: 1. 輸出数量, 輸入数量とも2010年=100とした指数 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁) 3. 原油価格は全日本通関CIF価格(出所: 財務省) 4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの期中平均値  
資料: 財務省「貿易統計」

### ● 原油価格・円レート

- 原油価格は43.5ドル/バレルと6カ月連続で下落。
- 円レートは121.8円/ドルと円高となった。



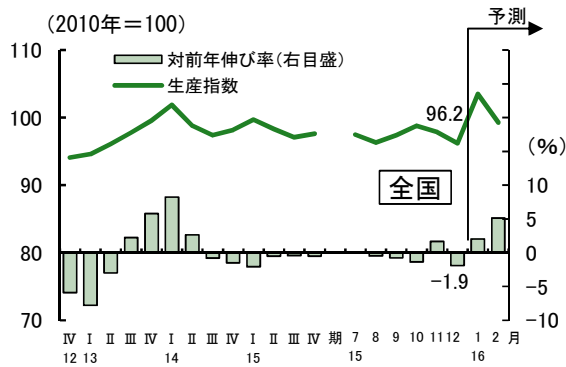
## 6. 生産動向 (12月)

生産は全国、中国ともに一進一退となっている。

### ● 生産指数 (総合)

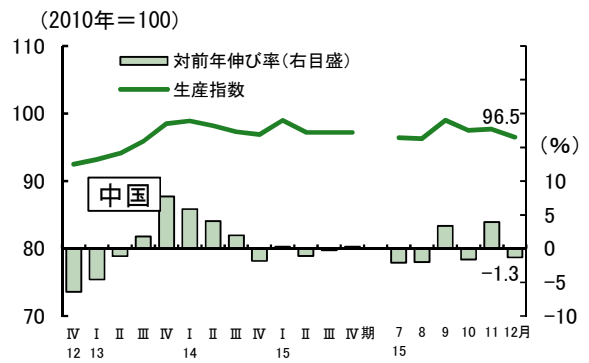
#### (全国)

- 生産指数 (季節調整済) は、輸送用機械などが下降したことから 96.2 (前月比▲1.7%) と 2カ月連続で前月比マイナス。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比▲1.9%と 2カ月ぶりに前年を下回った。

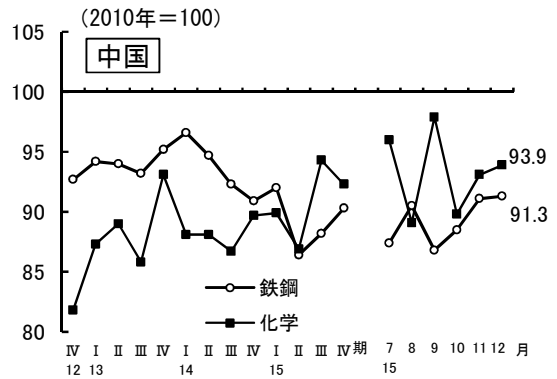
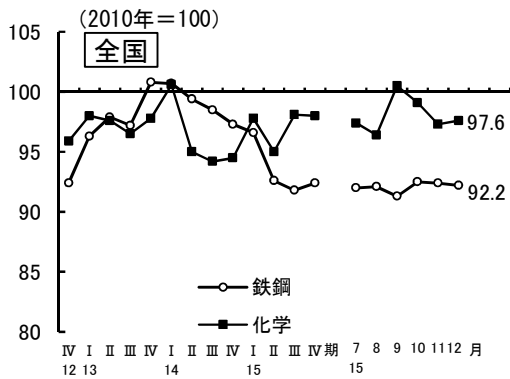


#### (中国)

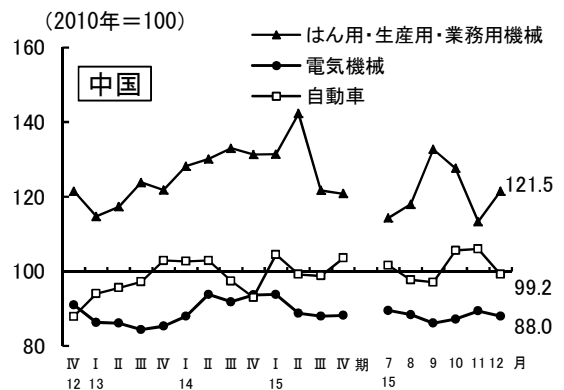
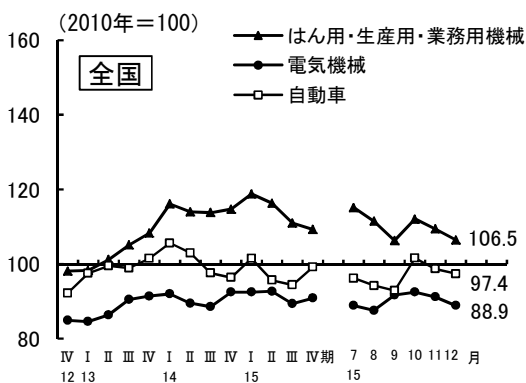
- 生産指数 (季節調整済) は、輸送用機械などが下降したことから 96.5 (前月比▲1.2%) と 2カ月ぶりに前月比マイナス。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比▲1.3%と 2カ月ぶりに前年を下回った。



### ● 生産指数 (素材)



### ● 生産指数 (機械)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は製造業の値を基に算出 4. 中国の最新月は速報値  
5. 「電気機械」は1995年基準の業種分類を適用 (2010年基準における電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計)  
6. 「自動車」は全国では「特掲：乗用車・バス・トラック」、中国では「自動車工業 (乗用車・トラック・主要部品)」  
資料：経済産業省「鉱工業 (生産・出荷・在庫) 指数確報」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」



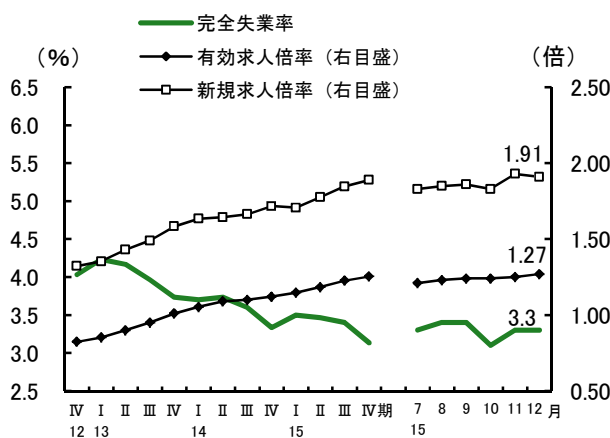
## 7. 雇用情勢(12月)

雇用情勢は全国、中国ともに求人倍率が高水準で推移するなど、着実な改善を続けている。

### ● 完全失業率, 有効求人倍率, 新規求人倍率

(全国)

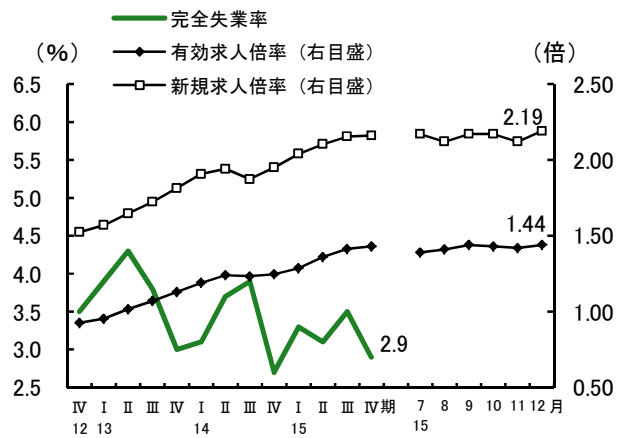
- ・完全失業率は3.3%と前月と同水準。
- ・有効求人倍率は1.27倍と前月から0.02ポイント上昇。
- ・新規求人倍率は1.91倍と前月から0.02ポイント低下。



注：完全失業率の月次, 有効求人倍率, 新規求人倍率は季節調整値, 完全失業率の四半期は原数値  
資料：総務省「労働力調査報告」, 厚生労働省「職業安定業務統計」

(中国)

- ・10-12月期の完全失業率(原数値)は2.9%と前年同期比で0.2ポイント悪化。
- ・有効求人倍率は1.44倍と前月から0.02ポイント上昇。
- ・新規求人倍率は2.19倍と前月から0.07ポイント上昇。

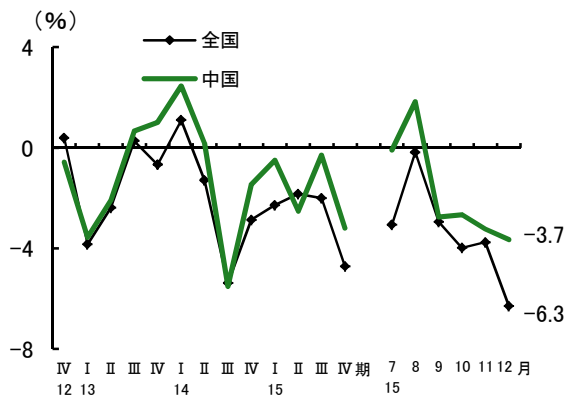


## 8. エネルギー(12月)

電力需要は全国、中国ともに前年を下回った。  
ガス販売量は全国、中国ともに前年を下回った。

### ● 電力需要 [対前年伸び率]

- (全国) 8カ月連続で前年を下回った(前年同月比 ▲6.3%)。  
(中国) 4カ月連続で前年を下回った(同▲3.7%)。



注：電力需要の全国は10電力会社の合計値  
資料：電気事業連合会「電力需要実績(確報)」, (一社)日本ガス協会「都市ガス販売量速報」

### ● ガス販売量 [対前年伸び率]

- (全国) 2カ月ぶりに前年を下回った(前年同月比 ▲5.5%)。  
(中国) 4カ月連続で前年を下回った(同▲5.3%)。

